



Newsletter

ニュースレター 2015年2月 Vol.19

株式会社Y.E.S.ESL International JAPAN
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-10 グランスイート虎ノ門703
TEL:03-5510-4844 / FAX:03-5510-4845
URL : www.yesinternational.com
E-mail : info@yesinternationaljapan.com

女子ソフトボール留学 (マーセッド・カレッジ)

アメリカの女子ソフトボールは、レクリエーションスポーツとしても高い人気を誇っている一方で、世界ランキングでは常に日本と1位の座を争ってきました。アメリカの大学においても、ソフトボール部の専用施設は充実しており、ソフトボールと勉強を両立しての4年制大学の奨学金獲得、卒業後のプロリーグ挑戦、そしてレクリエーションとしての参加など、学生選手の目的は多岐にわたっています。

アメリカでは、どんな競技であっても、大学内のスポーツチームに参加する際には、勉強とスポーツの両立を求められます。どんなに選手として長けた能力があっても、学業面での成績が認められなければ、メンバーとして選出されることもありません。一方で、学生選手に対する奨学金は充実しており、スポーツを通して名門大学への入学を実現する学生も少なくありません。

マーセッド・カレッジの特徴

マーセッド大学のソフトボール部は、レクリエーションの学生と、大会など公式戦へ参加する学生とを別けて運営しており、過去にはUCデビスやUCサンタバーバラといった名門校へ選手を輩出しています。

マーセッド大学でのスポーツ留学の特色は、英語力に不安があっても、語学学校から留学を開始できることにあり、これまで多くの留学生たちが語学学校から留学をスタートさせ、アメリカでのスポーツ留学を実現させてきました。

また、コミュニティカレッジの特徴として、学生に対する学業面での支援が充実しており、留学生であっても、4年制大学への編入までに実践的な英語と基礎的な教養を身に付けることが可能です。語学学校→コミュニティカレッジ→4年制大学というステップを経ることにより、留学生の努力次第で可能性はどこまでも広がります。



ソフトボール部ヘッドコーチ スザン・マギー



2010年夏からマーセッドカレッジソフトボール部ヘッドコーチに就任。かつて自身もブルーデビルズでプレーしていた経験と、2年間に渡る指導経験が現在のチーム強化に繋がっています。

2003~2004年にマーセッドカレッジの主力選手として活躍、その後、2006年からアシスタントコーチとしてマーセッドカレッジに復帰しました。

マーセッドカレッジ卒業後はカリフォルニア州立大学スタニスロス校へ編入し、2007年に同校体育学科を卒業、その後、フレズノパシフィック大学で運動科学学科の修士号を取得しました。2008年の5月には、オリンピックアメリカ代表チームと戦った経験も持っています。



Merced College (マーセッド・カレッジ)

サンフランシスコから南東へ120マイル、世界的に有名なヨセミテ国立公園の玄関町として知られるマーセッド市にあるMerced College。マーセッド・カレッジの留学生が活躍できるフィールドは数多く、野球、バスケットボール等のスポーツ留学、スポーツトレーナーコースが用意されています。毎年カリフォルニアの有名大学に数多くの編入生を輩出しています。

ソフトボール留学（学生インタビュー）

「文武両道を目指して」 貴名 遥さん



マーセッド・カレッジで、大学のソフトボール部に所属しながら、デジタルアートを専攻し、スポーツと勉学に励んでいます。ソフトボール部では二塁を守っていますが、基本的には投手と捕手以外はどこでも守ることができます。ソフトボール部に入ってから、まだ一年目なので、チームに貢献できるよう毎日の練習に汗を流しています。

ソフトボールは小学生2年生の頃から中学、高校と続けてきました。アメリカ留学を決意したきっかけは、もちろんソフトボールなのですが、多くの経験をした方が良いという母の勧めもあり、アメリカで色んなことに挑戦することで、今は貴重な経験をたくさん積ませてもらっています。そうしたアドバイスをくれた母には、感謝の気持ちでいっぱいです。

今セメスターは、ソフトボール部がシーズンを迎え、基礎トレーニングから守備のフォーメーション練習まで、内容の濃い練習を行っています。ソフトボールを中心とした生活をおくっていますが、勉強も同時進行で、他の学生に遅れをとらないように頑張っています。大好きなソフトボールですが、生活リズムが変わったり、勉強などに追われ、忙しくなっていますが、そこに少し楽しさを感じるようになりました。

最近はメンバーにも自分の名前を覚えてもらい、話をする機会も増えました。日本と違うところは、選手同士の距離や、選手とコーチの距離が近い点です。コーチに対して質問がしやすく、話しかけやすいように感じています。練習量は高校時代と比べるとかなり少ないと思いますが、一方で、プレーする時は100%でプレーをすること、私情をフィールドに持ちこまないことなど、チームにはしっかりとしたグラウンドルールもあり、バランスが取れたチームだと思います。

1月31日に今シーズンの初戦を控えています。今シーズンを良い結果で終えるためにも、初戦を勝って、自分にとって初めてのアメリカでのソフトボールシーズンを実りあるものにしていきたいと思っています。大変な日々が続きますが、文武両道を目指して、頑張ります。

水球留学（マーセッド・カレッジ）

カリフォルニアは温暖な気候に恵まれており、年中を通してウォータースポーツに取り組むことができる環境が揃っています。競技人口を見ても、日本を凌駕しており、特に水球はアメリカの人気競技の一つでもあります。カリフォルニアはアメリカでも水球/水泳の激戦区となっており、高校から学校の部活として水球を選ぶ若者も少なくありません。そうした選択を可能にするのが、アメリカ特有の広大なキャンパスに設置される競技用プールです。マーセッド大学の競技用プールは、最深16フィート（約5メートル）あり、飛び込み競技にも対応できるようになっています。

マーセッド・カレッジの特徴

アメリカでは、水球部は秋学期、春学期には水泳部がシーズンです。両競技共に人気も高く、シーズン中の試合では、多くの観客が試合観戦に訪れます。マーセッドの水球/水泳部に所属する選手たちは、カレッジ近隣にある三つの高校、その他の地域からマーセッド・カレッジへ集まってきました。

マーセッド・カレッジでは、以前から、日本の高校生や大学生など、水球の短期留学生を複数受け入れており、様々な選手の多様な感覚や技術をチームに取り入れることで、発展を遂げてきました。

男子水球部に所属している学生の声

斎藤幸樹君

「勉強と水球を両立するために、計画性を持ち、授業の予習・復習を欠かさないようにしています。」

語学学校の時には周りの留学生たちと助け合いながらやっていくことができましたが、今は周りに日本人もおらず、実力勝負の世界です。最初はつまずくと思いますが、自分にとってはプラスになると思っています。

水球部に所属して感じることは、日本では高校で基礎の部分が終わらせてしまうのですが、アメリカでは大学に入っても型をしっかり作りながら実戦を行っていることで、そこは大きな違いだと思っています。」



マーセッド・カレッジの野球部 日本人留学生2名が1軍入り！

マーセッド・カレッジでは、今年も野球部のシーズンが開幕、日本人留学生から石井純平君、齋藤雄行君が1軍（ロースター）入りを果たしました。



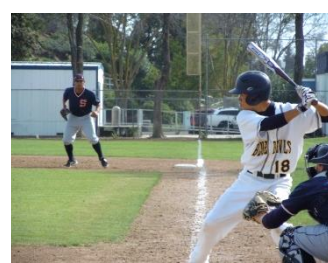
石井純平君（都立城東高校出身）

背番号16を背負う投手の石井君は、2年連続1軍に選出され、今期が4年制大学への編入を控えた最後のシーズンとなります。編入後の将来を見据え、今期を「野球人生最後のシーズン」と位置づける石井君、今期は選手達の精神的支柱としての役割を担いながら、リリーバーに徹しての活躍を期待されています。

1/31(土)にマーセッド大学で行われた本拠地開幕戦では、2名の出場機会はありませんでしたが、多くの地元ファンが球場に詰めかけ、選手達に熱い声援を送りました。

チームは開幕3試合を終えて、現在1勝2敗と負け越していますが、3試合で18得点と打線は好調を維持しており、投手陣の復調が期待されています。

今期のロースターには、カナダ人留学生のNoah Gapp君、Justin Kehler君も選出されており、留学生の活躍で、2013年以来となる2年ぶりのプレーオフ進出を目指します。



齋藤雄行君（創価高校出身）

背番号18を背負う齋藤君は、1年目にして1軍入り、開幕スタメン出場を果たしました。背番号18といえば、昨年、マーセッドカレッジからBCリーグ 信濃グランセローズ入りを果たした永富翔太君が背負っていた番号であり、永富君と同じセンターを守る齋藤君への、首脳陣の期待が覗えます。



アメリカ野球ニュース

マイアミ・マーリンズの編成アドバイザー、フリーマン氏がスカウト功労賞受賞

イチロー選手がマイアミマーリンズとの1年契約に合意したとニュースメディアやマーリンズ球団ウェブサイトでも報道されていますが、そのマイアミマーリンズで1993年の球団設立時から球団編成部に携わっているオーリン・フリーマン氏が30年間のスカウト業績を讃えるスカウト功労賞を受賞しました。



フリーマン氏は南カリフォルニア大の野球部の選手として、またコーチとして同大学野球部を7年間で6度の地区リーグ優勝に導き、その後、20年間以上、地区優勝から遠ざかっていたサンフランシスコ州立大の監督に就任し4年間で3回の地区優勝を達成。その後、ニューヨークヤンキース、モンテリオールエクスポズの球団編成スカウトを経て93年のマーリンズ設立から編成担当スカウトとして活躍。現在マーリンズの編成シニアアドバイザーとして球団を支えています。

エイドリアン・ゴンザレス選手（LAドジャース主砲）、ジョシュ・ベケット投手（MLB14年目の昨年現役引退）のドラフト指名もフリーマン氏の業績です。

今回の功労賞は30年間以上、スカウトとして輝かしい業績を収めてきたフリーマン氏の功績を讃えて、功労賞『George Genovese Lifetime Achievement Award』が贈られたものです。

1997年と2003年にワールドシリーズを制覇しているマーリンズ。イチロー選手の加入で2015年シーズンの活躍が期待されます。

*写真上、フリーマン氏は、2012年に開催したサンディエゴ・トライアウトにもアドバイザーとして視察・協力してくれています。写真中央：フリーマン氏、左：WBA代表マーシュ氏、右：代表山内

*写真下、97年のワールドチャンピオンリング（実物）



全米でも数少ない、現地高校への短期体験留学

高校からのアメリカ留学を考える時、留学先の選択は生徒の将来を決めることにも繋がる大切なプロセスです。学校のカリキュラムや生活環境はもちろん、アメリカでの生活がその生徒の性格に合っているか、心身共に充実した高校生活を送ることができるかは実際に現地生活をして見ない限り見極めることが難しい条件の一つです。

留学生の受け入れが当たり前に行われている大学留学とは異なり、留学生の受け入れをしている現地高校の数はそれほど多くありません。きちんと留学生向けにI-20(入学許可書)の発行とビザ申請支援のできる学校は主に私立高校に限られており、尚且つアメリカ現地で保護者として生徒のケアができる代理人が必要になります。

このような限られた環境であるからこそ、現場の環境が正しく安全なものであるか見極めることが肝心です。しかしながら、アメリカでの高校留学を目指す場合、情報は非常に限られていて、尚且つ語学学校のように気軽に体験することのできる短期研修の機会も少ない為、学校選びの段階で留学を諦めざるを得ないことになることも少なくありません。皆さんのやる気に応える環境が、アメリカにはあります。まずこの環境が自分に合ったものであるものなのか、試してみることが新たな可能性を見出すキッカケになります。

受け入れ可能期間

オレンジウッド・アカデミーが冬休みや春休みなどの長期休暇になる時期以外は年間を通し受け入れを行っています。

長期休暇期間は毎年異なりますが、おおよそ毎年下記のようなスケジュールになっています。

- ・冬休み 12月20日前後から1月3日頃まで
- ・春休み 4月1日前後から1週間程度
- ・夏休み 6月1日前後から8月末頃まで

＊上記以外の期間内にて、各参加者の予定や希望などを相談しながら、参加日程を決定します。



プログラム内容

参加者の現在の学年と語学レベルを基に適切な学年・クラスを選定し、他学生と共に授業に参加します。オレンジウッド・アカデミーには留学生向けのESLクラスが用意されていますので、英語力に自信のない生徒の場合はESLクラスと、高い英語力を必要としないクラス(アートや音楽など)を履修します。

プログラム参加中は、学校の部活、スポーツ活動や他の行事(演劇、音楽会、遠足など、その時期にあるもの)などにも参加することができます。

一カ月からという短い期間の授業参加になりますので、参加期間中に履修をした単位は正式な取得単位として換算することはできませんが、プログラムを修了後には学校から修了書が発行されます。

参加条件

オレンジウッド・アカデミーは留学生向けのESLプログラムを保有している為、体験プログラムへの参加にも高い英語力は求められません。

ただし、短期間と言えども親元を離れ文化の違う環境で過ごすことは、生徒自身にとっても、大切なお子様を送り出すご家族にとっても、簡単なことではありません。きちんと家庭内で話し合い、チャレンジしてみたいという気持ちがある生徒のみ、受け入れを行います。オレンジウッド・アカデミーは幼小中高一貫校ですが、安全性を考え、短期プログラムは小学校高学年以降の参加に制限しています。

滞在先や通学方法

オレンジウッド・アカデミーには他の一般的な中学や高校と同じく、学校の寮はありません。その為、全ての留学生は現地ホストファミリー宅へ滞在します。ステイ先は学校関係者や生徒の家庭、もしくは現地日本人ガーディアン(保護者)の自宅となります。

アメリカでは高校生は基本的に一人で外出することが許されていないので、学校までの通学はホストファミリーが毎日車で送迎します。

ホームステイには一日3食が含まれており、サンドイッチやフルーツといった現地生徒と同じようなランチパックを学校に持参することになります。オレンジウッド・アカデミーには、他の一般的な中学や高校と同じく、学校の寮はありません。

安全で快適な街、サンディエゴ

プログラムはカリフォルニア州南部に位置するサンディエゴで行われます。サンディエゴは全米で最も住みたい街ランキングにニューヨークに次いで2位に輝いた美しい港町です。夏の間も平均最高気温が25℃前後で、湿気が少なく乾燥しています。

サンディエゴ市内2箇所にヨガスタジオがあり、この両方をプログラム中に使用します。一つはダウントウンに程近いヒルクレストというエリアにあって、新旧の街並みが共存した美しいサンディエゴを堪能できます。もう一つはビーチ目のパシフィックビーチスタジオです。美しい海岸線と青い空が広がるサンディエゴを楽しめます。

授業、使用するテキストは全て英語となります。“日本人専用”のプログラムとは異なり、地元の参加者と一緒にコースを受講することで多様な文化に触れ、今までとは全く違った新たな考え方を開眼させてくれるきっかけになるかもしれません。

ヨガ留学プラン

① ヨガのみに集中！ヨガコース

短期間サンディエゴに滞在をする予定のある方や、自分のペースで楽しみながらヨガを体験してみたい方にお勧めのコース。ホームステイ(またはホテル)に滞在をしてアメリカ生活を体験しながら、ヨガのクラスに通うことができます。

② 語学+ヨガコース

短期から中期に掛けて、英語を学びながらヨガを体験してみたい方にお勧めのコース。参加者の英語レベルに合わせ最適な語学学校を手配し、ヨガのクラスにも無理なく通うことができるよう、ホームステイ(またはホテル)やスケジュールをコーディネートします。

③ RYT200取得コース

5週間~3か月程の集中講座を通し、ヨガアライアンス認定RYT200資格の取得を目指すコース。コース修了後には認定書が発行され、全米ヨガアライアンス認定ヨガインストラクターとして登録することができます。

ヨガプログラム講師



ティーチャートレーニング インストラクター クリス・バン・デ・マーウィ E-RYT200/CMTA

現代のアシュタンガ・ビニャサシステムを作り上げたパタビ・ジョイス師の下、師の孫であるSharath Rangaswamyと共にインドにあるAshtanga Yoga Research Instituteでヨガを学び、他にも世界各国を歩き回りヨガ修行を続ける。2011年には2年以上1000時間以上の指導経験者のみ認定されるヨガアライアンス公認E-RYT200を取得。国内外を問わず後継の指導にあたっている。

また5年以上にも渡る栄養学アドバイザーとしてのキャリアを生かし、ヨガと食の両面から心身の健康を追求し続けている。



アシスタントインストラクター シンシア・レイ RYT200

Kundalini Yogaコミュニティで生まれ育ち、幼い頃からヨガやアーユルベダに慣れ親しんできた。2009年からクリスのもとアシュタンガヨガに本格的に取り組み始め、2010年にはRYT200を取得。同年Mark Whitwellらと共にインドへヨガ浸礼に行くなど、追求心に終わりは無い。サンスクリット、チャント、メディテーションをマスターする為日々奮闘中。

プログラム体験者の声



5ヶ月RYT200プログラム参加 Rieさん ーヨガ留学を決めたきっかけは？

英語習得と、アメリカでのヨガ経験をしたかったからです。「全米」ヨガアライアンスというくらいなので、なおさらアメリカで取得したいと思いました。

ー実際にプログラムへ参加し、感じたこと。

サンディエゴへ実際に来てみて想像と違う部分はそんなにありませんでしたが、あえて言うならスペイン語を話す人が多いと思いました。あと、サマータイム明けの日没が思ったよりも早かったです。

3か月のヨガ集中プログラムは、練習時間を設けられるので、ヨガに集中できるいい期間だと思います。

先生によって違いはあるものの、語学学校で学んだものも多かったです。何よりホストファミリーとの生活を通じているんな人に会うことができ、本当のファミリーのように接してもらったのでとても充実した日々が過ごせました。

最初の2-3週間は言葉も理解できず、言いたいことも言えなくて辛かったが、いろんな国の人と会えて、英語を通してわかりあえることに喜びを感じるようになりました。日本に帰ってからもヨガをもう少し練習しつつ、英語の勉強も続けたいと思います。



野球サマーキャンプ概要：

年齢別野球キャンプ（10歳-12歳リーグ、13歳-15歳リーグ）

- ・キャンプ参加選手がチームに分かれて12-16試合のリーグ戦に参加
- ・1週間に4試合、更に球場とトレーニング施設での練習
- ・期間中、選手はIMGアカデミー学生選手寮に宿泊します。野球、テニス、ゴルフ、サッカーなどサマーキャンプに参加する世界各国からの選手たちと一緒に生活します。1日3回、選手のコンディションを考慮した栄養バランスの取れたメニューの食事を取ります。

キャンプ日程：

15U プレミアリーグ（13-15歳選手） 2015年7月12日-8月8日（全28日間）

12U プレミアリーグ（10-12歳選手） 2015年7月19日-8月8日（全21日間）

＊リーグ開催期間の前後に1週間ずつのトレーニング参加を付加するオプションもあります。

IMGアカデミーのトレーニング

世界中からアスリートがトレーニングを目的に集まるIMGアカデミーのトレーニング施設は非常に充実しています。キャンプ期間中、専門のトレーニングコーチから最新のトレーニング理論や栄養学を学んだり、選手の年齢に合ったウエイトトレーニングの講習を受けます。

指導経験豊富なコーチ陣による指導

キャンプで選手を指導するのはアメリカの大学野球、プロ野球でのプレー経験、指導経験をもつアメリカ人コーチたちです。野球の技術指導だけでなく、試合に向けた調整方法を教えてくれたり、大学野球部やプロ球団が選手をスカウトする時にどのようなポイントを評価するのか等、将来的な野球選手としてのキャリアを見据えた指導をしてくれます。キャンプ後には各参加選手に、今後取り組んでいくべき課題点とトレーニング計画についてアドバイスをしてくれます。

ゴルフサマーキャンプ概要：

IMGアカデミー・サマーゴルフキャンプでは技術指導の評価が高く、高度なスイングテクニックを教えるゴルフコーチによる指導のもと、選手がどんなコースにでも対応できる能力を身につけ、スコアを上げるサポートをします。キャンプ参加対象は8歳-18歳のゴルフ選手。期間中、選手はIMGアカデミー学生選手寮に宿泊します。

キャンプ日程：

5週間キャンプ：5/7-7/11、7/12-8/15のどちらかをお選びいただけます。

3週間キャンプ：5/24-6/13、6/14-7/4、7/5-7/25、7/26-8/15のいずれかをお選びいただけます。

ウィークキャンプ：5/24から8/29までの間で参加者のスケジュールに合わせて実施できます。

*5週間キャンプ、3週間キャンプのスケジュールに合わない場合でも、ウィークキャンプを組み合わせることで1週間から14週間までの長さでカスタマイズすることが可能です。

IMGアカデミー サマーゴルフキャンプの特徴

- ・各選手の技術レベルに合わせた技術指導を受ける
- ・ゴルフスイングのフォーム習得、スイング技術など基礎技術から学ぶ
- ・アメリカの大学ゴルフ部入部につながる大学スポーツ進学指導を受ける
- ・IMGアカデミー学生スポーツ選手たちと同じようにトレーニングに取り組みライバル選手と競い合う環境で技術を磨く
- ・メンタル強化、常に自分の能力を発揮するテクニック習得、栄養学、リーダーシップ教育などアスリートとして必要な総合的な知識を身に付ける「トータル・アスリート・トレーニング」に取り組む
- ・バランス感覚、俊敏性、集中力、自信、柔軟性、そしてパワーを身に付けるためのメンタルトレーニング、フィジカルコンディショニングトレーニングに取り組む

① **+英語研修トレーニング**：ゴルフの技術と英語力を伸ばしたい留学生用コース

② **+英語テスト対策コース（15歳～18歳）**：大学進学や英語のテスト対策のコース。半日の技術トレーニング後、午後は英文読解と記述、テスト対策と演習、TOEFL模擬試験を行い、英語力の更なる向上を目指したトレーニングに取り組めます。

③ **+英語上達コース（8歳～18歳）**：技術トレーニングと楽しみながら英語の語彙を増やすトレーニングに取り組むコースです。IMGアカデミーキャンパス郊外での学習やスポーツや食事、健康や旅行など、学生に身近なトピックの英単語や英語表現を学びます。



アメリカの ITA(Intercollegiate Tennis Association : 大学テニス連合)の試合レポート



*私立サンディエゴ大学のNo.1シングルス ヨーオス・ペトロニベビッチ (右) とNo.2シングルス フィリップ・ビテック (後方)

9選手中8選手が留学生で構成されたチーム 私立サンディエゴ大学は、過去最高ランキングを目指す

2015年1月31日、サンディエゴの USD (University of San Diego : 私立サンディエゴ大学)のキャンパスにおいて、私立サンディエゴ大学対 Cal Poly (California Polytechnic State University: カリフォルニア州立ポリテックニック大学) の大学対抗戦が行われました。

両校のITA大学ランキングは、私立サンディエゴ大学の全米41位に対してカリフォルニア州立ポリテックニック大学はランキング圏外の75位以下です。また選手個人のシングルのランキングにおいても、ランキング選手を一人も持たないカリフォルニア州立ポリテックニック大学に対して、私立サンディエゴ大学にはヨーオス・ペトロニベビッチ (セルビア・同53位) やフィリップ・ビテック (スロバキア・同70位) を筆頭に、ダブルスの名手も取り揃えて、磐石の布陣をひいてきました。

アメリカの大学対抗戦に使用される基本的なフォーマット

1. セルフジャッジ。
2. レットなし。サーブにおけるレットはなしで、そのままプレーが続行。
3. ダブルス3試合でスタート。1セットのみで勝敗が決まり、2試合先取したチームが1ポイントを獲得。勝敗が決定した時点で他のマッチも終了。
4. シングルス6試合が6コートを使って同時にスタート。2セット先取の3セットマッチ。1つのシングルの勝利は1ポイントとなる。
5. 全部のシングルスマッチが終了した時点で、最終的により多くのポイントを獲得したチームが勝利。



最初のダブルスは、私立サンディエゴ大学が良いスタートを切り、二つのマッチを6-2、6-2で勝利して、まず1ポイントを獲得しました。

次に行われたシングルス6試合でも、まず私立サンディエゴ大学が先手を取り、No3シングルスで6-2、6-0で勝利。その他の試合でもその勢いは止まらず、No2とNo4シングルスにおいて、僅差の7-5、6-4と7-5、6-3というスコアで勝利し、早々と4ポイントを獲得しこの日の勝利を決定付けました。最終的にNo1、5、6のマッチも僅差で私立サンディエゴ大学が逃げ切り、7-0という最終スコアで勝利しました。

この試合の前週には、全米ランキング21位のサウスフロリダ大学に勝ちランキングを41位に上げていた私立サンディエゴ大学ですが、この試合を含む今週の結果を受け35位までランキングが上昇しました。

私立サンディエゴ大学のテニスシーズンは4月末まで続きますが、チームの過去最高ランキング12位 (1990年シーズン) を目指し、確実にギアをあげています。

MLSのオーナーを追う！～Seattle Sounders FC ポール・アレン（前編）

皆さんは、サッカークラブのオーナーになりたいと思った事はありませんか？サッカークラブのオーナーとは、一体どんな人が務めているのか、疑問に思った事はありませんか？現在アメリカで多くのファンを魅了する存在であるMLSクラブのオーナーを紹介していきます。今回は、MLSで今最も勢いのあるクラブ、Seattle Sounders FCです。

ポール・アレン氏（以下アレン氏）。世界最大のコンピューター・ソフトウェア会社として知られるマイクロソフトの共同創業者である彼こそが、Seattle Sounders FC のオーナーです（正確には共同オーナー）。アレン氏は、2014年時点でおおよそ117億円の準資産を保持しており、世界で55番目の資産家とされています。

アレン氏は、1953年にアメリカ合衆国・ワシントン州・シアトルで生まれました。幼い頃からコンピュータに興味を持ち、中学校の時には仲の良かった3歳年下の友人と、コンピュータに対する熱い想いを話し合うようになります。この友人こそが、将来、アレン氏と共にマイクロソフトを立ち上げるビル・ゲイツ氏です。彼らのコンピュータに対する興味は、通学していたレイクサイド中学に導入されたDEC社（1957年に設立されたアメリカを代表するコンピュータ企業の一つ）のコンピュータを使用することで、日に日に増していきました。

アレン氏は高校卒業後、ワシントン州立大学へ進学しましたが、大学入学からわずか2年後、プログラマーとしてアメリカの多国籍企業Honeywell（1886年設立。電子制限システムや自動化機器の製造販売を行う多国籍企業）で働くため、大学を中退します。向かった先はマサチューセッツ州ボストン、あのビル・ゲイツがいる都市でした。

アレン氏は、当時ハーバード大学に通っていたビル・ゲイツ氏を説得し、大学を中退させます。全ては、2人で起業すること、マイクロソフトを設立することでした。そして1975年、アレン氏は22歳という若さでビル・ゲイツ氏と共にマイクロソフトを設立します。

マイクロソフトはBASICインプリンタの販売をはじめ、大手企業であるシアトル・コンピュータ・プロダクツ社とのビジネスなど、着々と成長の基盤を築いていきました。

しかし1982年、アレン氏はホジキン病（悪性リンパ腫）に侵され、マイクロソフトから一時的に退きます。病気は数ヶ月で完治しましたが、1990年に復帰するも、2000年11月には正式にマイクロソフトから辞職します。マイクロソフトを辞職した理由に関して、アレン氏は自身の著書、「ぼくとビル・ゲイツとマイクロソフト」の中で、こんな事を書いています。

ボストンで（ビル・ゲイツと）一緒にビジネスを始めた頃には、私たちの立場は対等だと思っていたし、これからもずっとそうだと思っていた。利益があれば、常に半々に分けるものだと思っていたのだ。だが、ビルの考えは違った。「半々はおかしいよ」彼は私にそう言った。「ボストンいた時、僕はほとんど何ももらわずに、BASICのコードの大部分を書いていたんだよ。僕のほうが多くもらわないと合わない。六対四にすべきだ」
(147ページ、第7章「MITS」より)

共同創業者であるビル・ゲイツとの個性の違いが、アレン氏をマイクロソフトから遠ざけていきました。しかしここから、アイディアマンと呼ばれるアレン氏の想像力に富むアイディアが、世界を変えていく事になります。【続きは次号】



（アレン氏：引用元 Forbes）



次号ニュースレターVol.20のご案内（3月中旬配布予定）

米国大学サッカー部の新しい受入先（カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校）、マーセッド・カレッジの現地活動情報、アスレチックトレーナーへの道のりを紹介します。その他、スポーツ、短期アメリカ情報を発信します。

Y.E.S. ESL International, Inc.



アメリカ、カリフォルニア州サンディエゴに本社を置き、州立大学付属英語学校の運営や大学のホームステイサービスを手掛ける。独自の留学プログラムで多くの留学生をナビゲートする。



留学への第一歩。

アメリカ留学に関する相談はY.E.S.にお問い合わせください。